# なぜ、私はオプス・ デイのアシスタン ト・ヌメラリーに なったのか。

いつからオプス・デイに所属してい ますか。どのようにしてオプス・デ イを知りましたか。

オプス・デイの一員になる決心をし たのは、1996年10月11日で す。その1年前、カトリック信者に なりました。オプス・デイの共同の 使徒職であるパンプローナのイラビ ア小学校で勉強した私の兄弟を通し て、オプス・デイを知りました。私 に興味があればと、そこで教育・職 業センターについてのビデオを手に 入れてくれました。それが、勉強し つつ働くという私の理想と一致して いたので気に入り、1995年11 月、ナバラ大学のゴイメンディ学生 寮併設の家政管理の職業教育セン ターに行きました。そこで、人々の 中に生きているオプス・デイの精神

を見て、オプス・デイのセンターの 管理部の仕事がいかに大切であるか に気がついたのです。

## オプス・デイの何があなたを惹きつ けたのですか。

一番注意を引かれたのは、この世の 直中でまじめにキリスト的生活を送 り、仕事という日常のことがらを通 して自ら神様ととても親しくなるこ と、また他の多くの人がそのような 親しさに気づき、それを生きるよ う、助ける可能性があるという点で す。

## なぜアシンタント・ヌメラリーにな ろうと思いましたか。

これは神様の呼びかけだとわかりました。最初は、家庭の仕事が重要だとは思わず、この仕事に専門的に従事するとは思いもしませんでしたし、むしろこの仕事は劣った仕事だと思っていました。両親のように画

家になるか、医者や教師のような、 他人に奉仕する職業につきたいと 思っていました。

しかし、家族が一人の人間の人生に おいて最も大切なものであり、他の どんな高貴な野心も、これとは比べ 物にならないということは、はっき りと理解していました。一方でま た、神様はオプス・デイがひとつの 家族であり、この家族の雰囲気を世 界中に伝えることを望んでおられる こと、そして家族には家、家庭が必 要であることも最初から理解してい ました。そして、アシスタント・ヌ メラリーになり、オプス・デイのセ ンターで人々の応対やお世話に従事 するためにふさわしい性質を持って いると思ったのです。

そんなある時、キリストの「わたし はあなたがたの中で、給仕する者の ようである」という言葉がとても強 く心に残りました。医学であれ教育 であれ、人に直接奉仕すると歌に直接奉仕するというでは同じ目的をもつ他の職名とを検討していたったはきったがはきるとの時、「自分で奉仕方でのはないです。ととといいいいにしても、たの仕事はもよっなではないにものではないにも、ないにはないです。それではよってするといったのではないです。それではました。

オプス・デイに所属してから後、小学校教育の分野の勉強をしました。 一般教養が身につき、特定の実践的な職業訓練プログラムとも両立できる学士過程を選びました。また、ピアノも学びました。

### 家庭での仕事とはどのようなもので すか。

私の職業の最も素敵なところは、他 の人のための休息場所を作るのに貢 その時その時の単調な仕事に見える ため、時折、程度の劣った仕事と思われてしまうことがあります。掃除 をとがあります。命にはない、一所懸命とれてもまた汚れる、一所ははないでもまたでは、30分後にはないなど。書かれたものはないなど。書かれたものなど。書かれたものなど。となるに1冊の本となって残りととされたり、世々人々に賞賛いることもあるでしょう。しかし、こ の仕事は一見単調で、繰り返しの多い仕事です。ところで、単調さや繰り返しの多さなら、何らかの形でで、他の全ての仕事にも生じることでは、賞賛や評り方でとは、あなた自身があなたのやり方でとは、あたによって与えるものなることができるし、そうしなければなりせん。

#### 将来性のある仕事だと思いますか。

必要不可欠な仕事です。それは、一人の人間とは何であるかとしいるの尊厳、家庭の価値とと、その尊厳、家庭の価値であるのの自覚にから、大変をします。女性なら、家庭の世話をでしょう。自分の家族が世るでしょう。自分である自分が最も大切である自がである。とと確信しているはずです。

自分の家庭内の仕事を奨励するため に、金銭的報酬が必要であるかのよ うに考えるのは私にはとても残念な ことに思います。とはいえ、この仕 事に従事する人が家族以外の人の場 合、家族を創るという社会において 本質的なものに貢献しているのです から、いい報酬が与えられ、社会的 にもっと適切に認められるべきだと 思います。家の維持、修理、設備の 施工等、人々が「必要だから」と、 沢山の支払いをするサービスがあり ますが、家事の場合にも同じことが 起こるべきです。家庭での健康と人 格の発達に必要だからです。

国際機関や政府などの援助のもと、 様々なレベルで、この仕事が、家族 の経済的事情のための重荷としてで はなく、本当の職業としての選択肢 の一つとなるよう働きかけなければ ならないと思います。とはいえ、世 界にはまだ、稼ぎのためではなく愛 のためになされる仕事があるべきだ し、実際にあるのです。

実際、自由に愛のためにそれを行う 人の個人的な満足感は値段のつけよ うのないものです。

最近日本に行きましたか。日本では 家庭での仕事はどのように考えられ ていますか。

最後に行ったのは1年前です。歴史 的に日本人は家族をとても大事にした。それは、おいしな、名 料理や、生け花などのような、親 子に伝えられ、家での生活なないも も心地よいものにする濃やかな、 も心地現れてアストフードが広り 国々同様、ファストラギ、もう でのます。人々は急ぎ、も たのことに向かっています。

私は、家族の世話をすることの価値 を再発見してほしいと思っていま す。それは素晴らしいことですし、 現代人にとても必要なことでしょう。具体的には、栄養があるだけでなく、私の国の文化的遺産でもあり、家族や友人をもっと結びつけるのに貢献するそれらの伝統的な料理の準備にもっとゆっくり時間を費やすようになってほしいと思います。

### 聖ホセマリアの教えはあなたの仕事 にどのように影響していますか。

聖ホセマリアから、イエス・キリストをどのように知り、主と付き合うか、そして、聖化すべき日常生活の価値を学びました。私にとって聖ホセマリアは、奉仕の精神のすばらしいお手本です。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/naze-si-

haopusudeinoashisutantonumerarininatsutan (2025/11/22)